

授業概要	<p>1～10回 研究計画書の修正、研究倫理審査委員会への申請 11～40回 研究の遂行 41～50回 中間発表、評価・修正 51～70回 研究の継続、論文作成 71～89回 研究結果の発表と批評に基づく修正、修士論文発表会の準備 90回 修士論文の完成・提出</p> <p>【生体防御学領域】 (山田武司) ・獲得免疫に焦点を当てた感染防御および腫瘍抑制に関する研究指導と論文作成の指導を行う。</p> <p>【生体機能検査学領域】 (岡村法宜・濱 智子) ・種々の生体信号計測による高次脳機能の解析・評価に関する研究指導と論文作成の指導を行う。</p> <p>【病態情報解析領域】 (山口文徳) ・細胞の増殖・分化のメカニズムや機能分子に注目し、その機能破綻によって生じるがんや中枢神経変性疾患の検査・診断・治療に関する研究指導と論文作成の指導を行う。 (脇坂浩之) ・頭頸部がんを中心に、がんの診断、病態、病因に関する研究指導と論文作成の指導を行う。</p> <p>【血液病態検査学領域】 (竹内一人) ・血液疾患の病態、病因に関する研究(がんゲノム解析や高齢者悪性リンパ腫の予後予測と標準治療の確立など)に関する研究指導と論文作成の指導を行う。 (石田也寸志) ・小児がんの病態と病因(遺伝的素因、がんゲノム分子標的治療など)に関する研究指導と論文作成の指導を行う。 (祇園由佳) ・リンパ増殖性疾患の病態、病因に関する研究指導と論文作成の指導を行う。</p> <p>【分子細胞生物学領域】 (檜枝美紀) ・細胞核構築およびその機能に関する研究指導と論文作成の指導を行う。</p> <p>【遺伝子検査学】 (高田智世) ・疾患と関連するゲノムの解析や遺伝子の機能や発現に関する研究指導と論文作成の指導を行う。</p> <p>【感染制御学領域】 (美間健彦) ・薬剤耐性菌の解析、毒素産生制御の解明、細菌毒素の再生医療への応用などに関する研究指導と論文作成の指導を行う。</p> <p>【病理細胞診検査学領域】 (則松良明) ・種々の臓器での癌およびその前癌病変における細胞診断基準の策定に関する研究指導と論文作成の指導を行う。 (草薙康城) ・子宮内膜症、子宮頸癌等の診断、病態、病因に関する研究指導と論文作成の指導を行う。</p>
成績評価方法及び基準	
<p>研究への取り組みと研究力の修得(60%)、修士論文作成への取り組み(20%)、修士論文発表会への取り組み(20%)により評価する。トータル60点以上を合格とする。</p> <p>【研究への取り組みと研究力の修得】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①先行研究等にも考慮しながら研究の意義や目的を十分理解して積極的に研究に取り組んだか ②指導教員等の助言を参考にして研究の質向上に努めたか ③研究目的に照らして適切な研究方法と解析が行われたか ④研究手技・手法の原理を理解し習得したか ⑤実験結果を正しく評価し、結論に導けたか ⑥得られた結果に基づく結論や新しい仮説への展望が、考察として示されたか ⑦研究遂行のために必要な情報を収集できたか ⑧指導教員等と結果について議論できたか ⑨教員とコミュニケーションが十分にとれたか <p>【修士論文作成への取り組み】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①論文作成に積極的に取り組んだか ②指導教員等の助言を参考にして論文の質向上に努めたか <p>【修士論文発表会への取り組み】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①発表会の準備に積極的に取り組んだか ②指導教員等の助言を参考にして発表の質向上に努めたか ③練習を十分にを行い発表の改善に務めたか 	
教科書	随時、資料を配布する。
参考図書等	

授業時間外の学習について（授業準備のための指示）

研究指導計画書に沿って、主体的に学習を進めてください。

関連科目

前科目		各領域の特論および 演習	M322	特別研究Ⅰ					
後科目									

実務家教員

備考

--	--